資料１

第１回「第５次福岡市一般廃棄物処理基本計画」策定作業部会報告

１　開催日時等

⑴ 開催日時

令和２年２月 28 日(金)15:00～17:00

⑵ 会場

アクロス福岡６階 606 会議室

⑶ 出席者（出席者５名，欠席者２名）

小出　秀雄　委員（部会長）　中山　裕文　委員
平　由以子　委員　久留　百合子 委員
田中　綾子　委員

２　議事概要

⑴ 「第５次福岡市一般廃棄物処理基本計画」策定作業部会長の選出について

部会長については，「第５次福岡市一般廃棄物処理基本計画」策定作業部会設置要綱（以下「要綱」という。）第４条第１項に基づき，委員の互選により小出委員が選出された。

また，職務代理者については，要綱第４条第３項に基づき，部会長により久留委員が指名された。

⑵ 「第５次福岡市一般廃棄物処理基本計画」策定スケジュールについて，「新循環のまち・ふくおか基本計画」の現状分析・課題整理及び新たな視点を踏まえて新計画で検討するべき課題・項目（テーマ）

新計画策定スケジュール，現計画の現状分析・課題整理及び新計画で検討するべき課題等について，事務局から資料１から３に基づき説明後，審議した。主な意見と考え方等については以下の表のとおり。

主な意見と考え方等

意　　見	意見に対する事務局の考え方等
策定スケジュールについて	
テーマや基本方針の検討が第４回では遅い。新計画の柱となる方針案を提示の上，現計画との違いが分かるよう提示してほしい。そのうえで新たな課題をどこに組み込むのか検討する進め方が良い。	テーマや基本方針といった総論については，第２回に事務局案を提示し，その後各論の検討を経て，第４回までにテーマを決定させていただく手順で次回以降準備する。
現計画の現状分析・課題整理	
今回の資料はリサイクルに特化したデータが多いため，その他様々な問題点が見えるようなデータの出し方をしてほしい。	今後，サーキュラーエコノミーの取り入れ方を提示し，新計画の主要課題となるプラスチックごみ，古紙，食品廃棄物の３品目について，課題の整理と，市民・事業者・NPO といった各主体の関わり方を検討する。
今日の資料ではマテリアルフローは見えるが，サーキュラーエコノミーを中心とした資料に刷新してはどうか。	
市民，事業者と行政がどのようにパートナーシップを組んでいくのかを入れていかないといけない。	
現計画においては，一般市民向けの施策が充実しているので，新計画においては事業者への誘導を図る施策を充実させてはどうか。	第３回にオブザーバー招致を予定しており，事業者から意見聴取することで有効な施策の検討を行いたい。
事業者の現在の取組みと今後の取組み計画を把握し，その情報を基に企業に対する要望等を行うことができるのではないか。	

意　　見	意見に対する事務局の考え方等
現計画の現状分析・課題整理	
事業者の自主的な取組みだけではごみ減量は難しく，経済的手法や規制が無いと厳しい。	事業系廃棄物対策における経済的手法や規制的手法の活用については，今後，考え方を提示する。
プラスチック対策については，いくつかの施策を検討した上で，福岡市ではこの方法にするという過程を経たほうが良い。石油由来のプラスチックが減っていくこと等を見据えながらルートをいくつか検討し選択できるようにしておく必要がある。	プラスチック対策については，第２回で検討するが，石油由来だけではなく代替素材を念頭に置いたうえで，福岡市としてとり得る施策を検討する。
古紙については，20,30 代の若者が資源化しているのか，資源化しやすい方法はどうなのか，世代毎に検討していかなければならない。	世代毎のアプローチ方法を検討していく。具体的な施策については，第２回で方向性を定めた上，第５回で検討する。
食ロス削減の取組みとして，事業者による AI の活用も重要だが，原材料が地域の中で循環する仕組みとそのための人同士のコミュニケーションが必要。対策に偏りがある印象が強い。	食ロス対策をすべてAIやICTの活用による効率化で対応できると考えているものではなく，ソフト的な施策，例えば広報啓発などでいかに削減していくのかを作業部会の中で議論していく。
アンケート調査結果をしっかり分析することで，ある程度市民のごみに対する意識と行動を読み取り，施策の推進方法につなげることができると考える。	本日提示したのは速報値であることから，最終報告が完成次第委員へ提供する。
新たな視点を踏まえて新計画で検討するべき課題・項目	
資料全体を通し，循環型社会形成推進基本計画に基づく地域循環共生圏の視点が抜けているように見える。その評価には指標開発や統計調査が必要となる。また，地域独自のリサイクルの仕組みの掘り下げが必要。	地域循環共生圏については視点の一つとして次回以降検討の俎上に載せる。 その中で，生ごみのたい肥化など，福岡の特性に応じた地域内循環のあり方を検討していく。
新計画で検討するべき課題・項目に地域循環共生圏が入っていない。生ごみのたい肥化も入ると考える。	
資源化を推進するためにリサイクル法があるのと同様にグリーン購入法がある。古紙価格の安定には，リサイクル品の使用が必要であり，両輪で進めないといけない。	民間企業のリサイクル品の利用促進については，グリーン購入ガイドラインの活用を含め，民間企業への啓発の強化策を検討する。
事業者が再生品の利用促進に取り組むためには，どのような製品があるのかの情報も必要だが，価格が高いとなかなか浸透しない。新計画に再生品の利用促進を視点として入れてほしい。	

(3) 環境教育，広報啓発のあり方について

主な意見と考え方等

意　　見	意見に対する事務局の考え方等
中学生・高校生への環境教育の取り入れ方	
環境教育だけでは学校で取り入れるのが難しいだろうが，例えば消費者教育に環境教育をセットした形なら検討できるのではないか。中学生向けなら市の教育委員会と組んでできないのか。	環境教育を推進する中で，他の分野の事業と合わせて実施することを検討していく。
中学校の演劇部が環境フェスタでエコのストーリーを考え上演するなど，環境教育と市民行事が上手く組み合わさった事例もある。	
若者の実態に則した環境教育の取り入れ方	
大学の講義では双方向の講義を実施しており，ICT の活用が見込めるのではないか。	ICT 等の活用や SNS での発信等，若者の興味や関心に則した施策を検討していく。
若者のニュースソースはＴＶや新聞ではなくネットニュースなどで関心事のみ入手していることから，若者の興味を引くコンテンツであることが重要。	
若者の意識づけと実践への後押し	
インパクトは，自分たちの将来にかかってくると感じられるかどうか。また，同世代の声にも刺激を受ける。自分達でもやれると感じられることが大事。	環境問題を自分のこととして受け止め，実践に移す際の留意点として承った。 これらの視点を踏まえ，若者を対象とした施策を検討する。
環境問題に取り組むと「何が得られるのか」というところを打ち出すとよい。また，若者の生態をよく掴んだ上で活用するとよい。	
奨学金免除の評価ではボランティア活動が加点される。誘導する方法も取り入れた方が実践人数は増える。	
ターゲットの分類方法	
「意識高い層」と「無関心層」の２分類は少々極端。例えば，「チャレンジエコ族」，「トレンディエコ族」，「デイリーエコ族」，「マイペースエコ族」と「無関心エコ族」という分類で考え方や行動の傾向を整理した分類が参考になるのでは。	ターゲットの分類について，委員から提供いただいた資料を参考に検討する。